

～事例報告～
日本文理大学における
人間力教育と
ジェネリックスキルの評価

NBU 日本文理大学
人間力育成センター長
吉村 充功

NBU日本文理大学の概要

人間力を育てるNBU

自立した一人の人間として、協力的あい、社会でたくましく生きていくために必要な「人間力」。その力を育むNBUの教育理念や人間力育成プログラム、そして、各学科の魅力を紹介します。

「人間力」で社会へ大きくはばたく未来のあなたを、ここで発見してください。

■ 学部・学科

【経営経済学部】



【工学部】



経営経済学科

ビジネスコミュニケーションコース

会計ファイナンスコース

スポーツビジネスコース

福祉・心理コース



航空宇宙工学科



情報メディア学科



建築学科



機械電気工学科

■ 大学院・別科日本語課程



大学院 工学研究科



別科日本語課程

- ◎ 1967年創立
- ◎ 前身は大分工業大学
- ◎ 1982年より現在の校名に



本日のトピックス

- ◎ NBUの教育理念と人材育成の方針
- ◎ NBUでのこれまでの
学生のコンピテンシー評価
- ◎ PROGテストによる学生評価
- ◎ 今後の活用方針と予定
- ◎ まとめ



NBUの教育理念と 人材育成の方針

建学の精神「産学一致」

産学一致

変化していく産業界に適応できるように、
生き方や働き方を考えよう。

【学部構成】

工学部

経営経済学部

教育理念

人間力の 育成

思いやりとチャレンジ力をもって、
勇気ある良き社会人になろう。

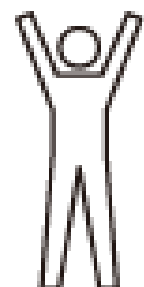
社会・地域 貢献

自分から進んで、社会・地域の
活性化のために行動しよう。

NBUでの「人間力」の とらえ方

地域経済社会の発展のリーダーとなる産業人へ

実社会を力強く生き抜くための人間力



こころの力

「自分らしい
生き方を考える
力」「相手を
思いやる
力」など



社会人基礎力

「前に踏み出す
力」
「考え抜く力」
「チームで働く
力」



職業能力

職業観や情
報スキル、
読み・書き
・計算など

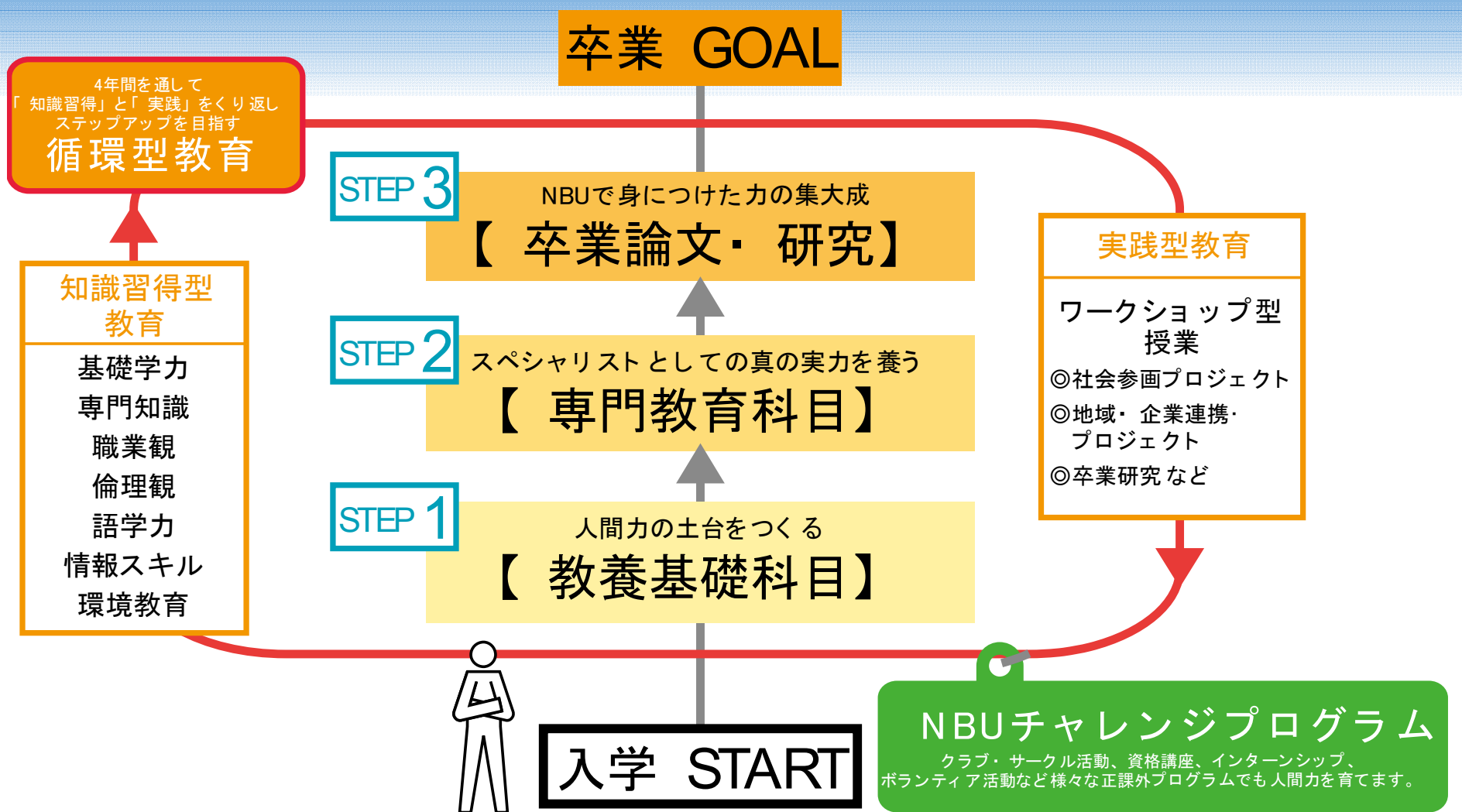


専門能力

各学科の
専門教科
目で身につ
く力など

リテラシー能力とコンピテンシー能力の測定は必須！

「NBU人間力育成プログラム」 の体系イメージ



各科目の成績評価の考え方 ～シラバスでの各項目の関係～

- ディプロマに対する科目の位置づけ
- 何がどの程度できるようになればよいか（S, A, B, Cそれぞれを念頭に）
- 事前と事後の伸びを考える

到達目標

評価指標

- 心ころの力
- 社会人基礎力
- 専門能力
- 職業能力
- 姿勢・意欲

3つをセットで考えなければ意味がない

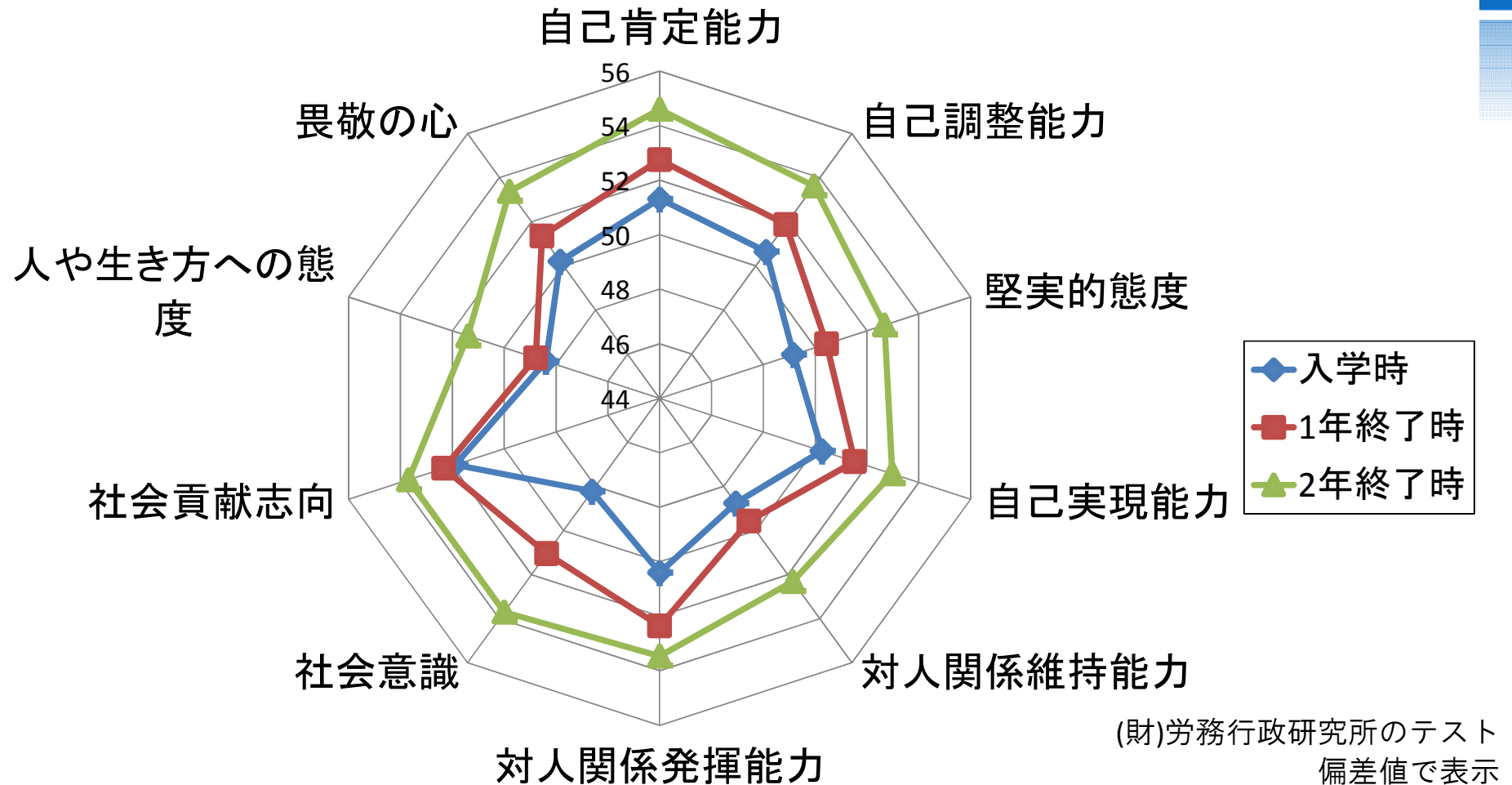
- 試験
- 小テスト
- レポート
- 成果発表
- 作品
- 出席
- ポートフォリオ
- 自己評価・他者評価
- プロGRESSシート
- 面談 など

評価方法

学力以外の能力の適切な評価が重要

NBUでのこれまでの 学生のコンピテンシー評価

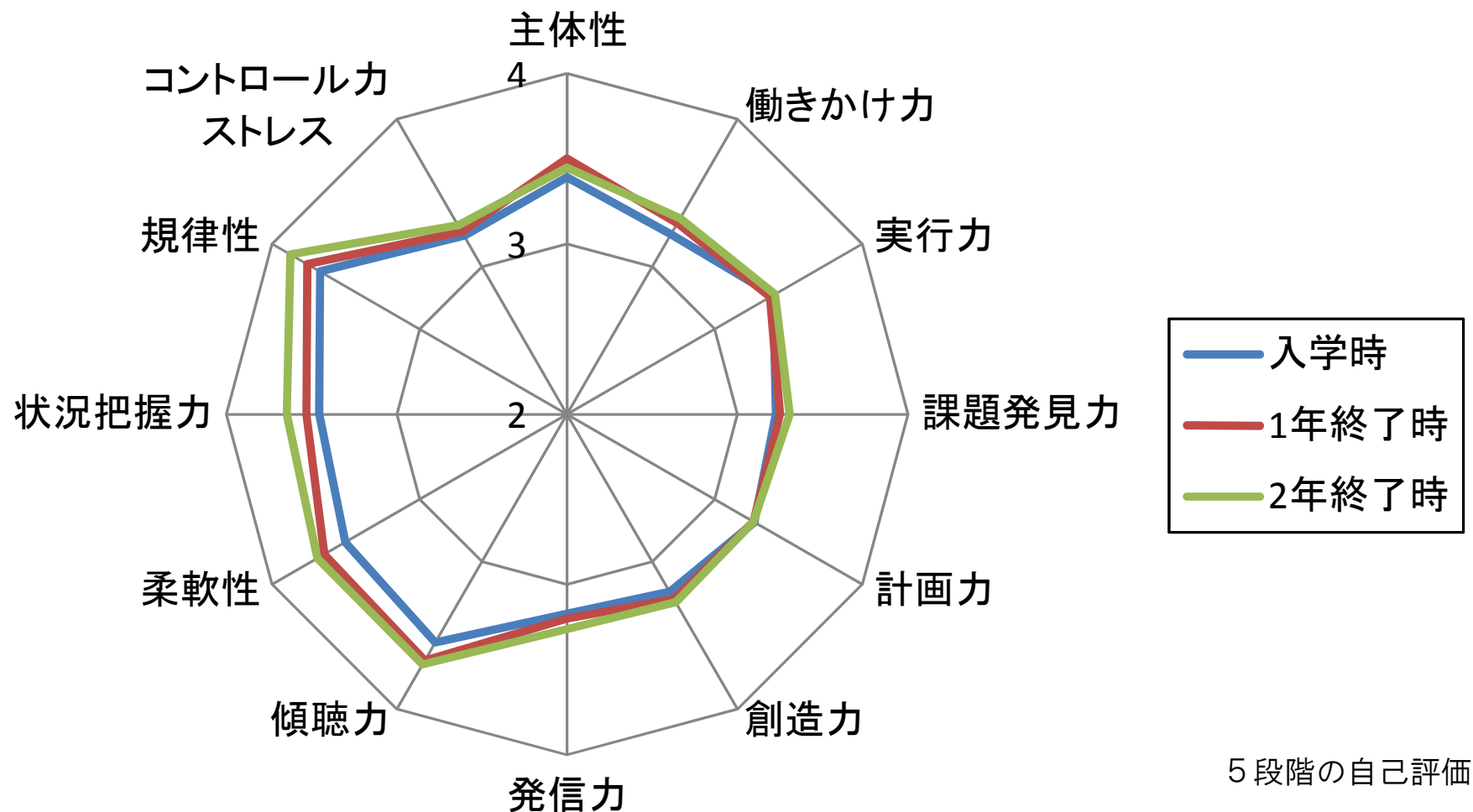
NEQテストによる客観評価 ～現3年生の成長（平均値）～



これまでは主に「こころの力」を測る客観テストを導入

社会人基礎力の自己評価

～現3年生の成長（平均値）～



「社会人基礎力」は自己による直接評価を実施

人間力育成の具体的取組 (社会人基礎力コア科目)

- ◎ 1年次：「社会参画入門」「社会参画実習1」
 目標：人間関係形成能力の育成
 大学に対する「構え」の構築
 ※担任制授業，後期学部混成
- ◎ 2年次：「社会参画応用」「社会参画実習2
 <企業課題型／キャリア開発型>」
 目標：将来設計能力の育成
 ※担任制授業（工），クラス授業（経）
 企業課題型は人間力育成センター主管
- ◎ 3年次：「社会参画演習<地域課題挑戦>」
 目標：地域・社会への貢献
 ※人間力センター主管

学内

企業

地域

事例：社会参画実習 1

(1年後期・教養基礎)

- ◎ 担当： 1年次生担任全教員
- ◎ 昨年度は20クラス82チーム
各クラスとも学部混成で30名以内で構成。
その中でチーム編成し，1チームは5～6名
- ◎ テーマ：「学内施設の改善提案」を主とした
学内ワークショップ
- ◎ 大学生活の場である学内や地元・大分に関心を向けることで，学生の学習に対する姿勢や
大学・地域に対する愛着を社会人基礎力，人間力を成長させながら植え付けていく

ワークショップ



学内調査



成果発表準備



合同成果発表会

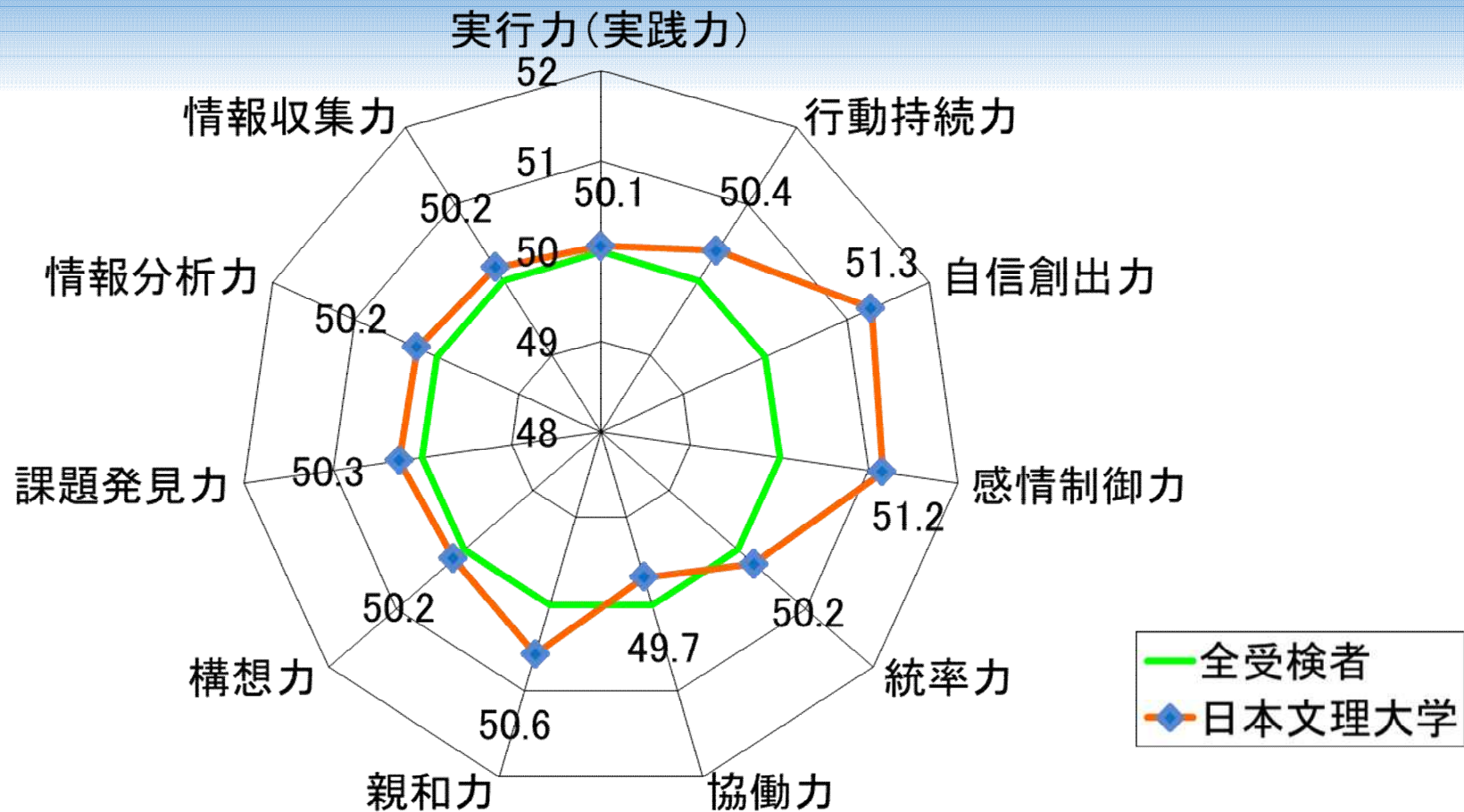


社会参画授業における 学生指導の現状と課題

- ◎ 学部を越えたチーム編成で、新たな学生や教員と交流する機会を提供
 - 社会での「チームで働く力」を強く意識
 - 人間力を実践で鍛える手段
- ◎ 所属学部の異なる教員でのチームティーチングにより指導力が向上 → 一方で全教職員が関わる限界
- ◎ 課題：
 - ◎ 学生個人の資質や能力，目標に基づく指導法の確立
 - ◎ ワークショップの指導力のさらなる向上
 - ◎ 適切な成績評価方法の確立

PROGテストによる学生評価

コンピテンシー領域の結果 (2年生全体平均)

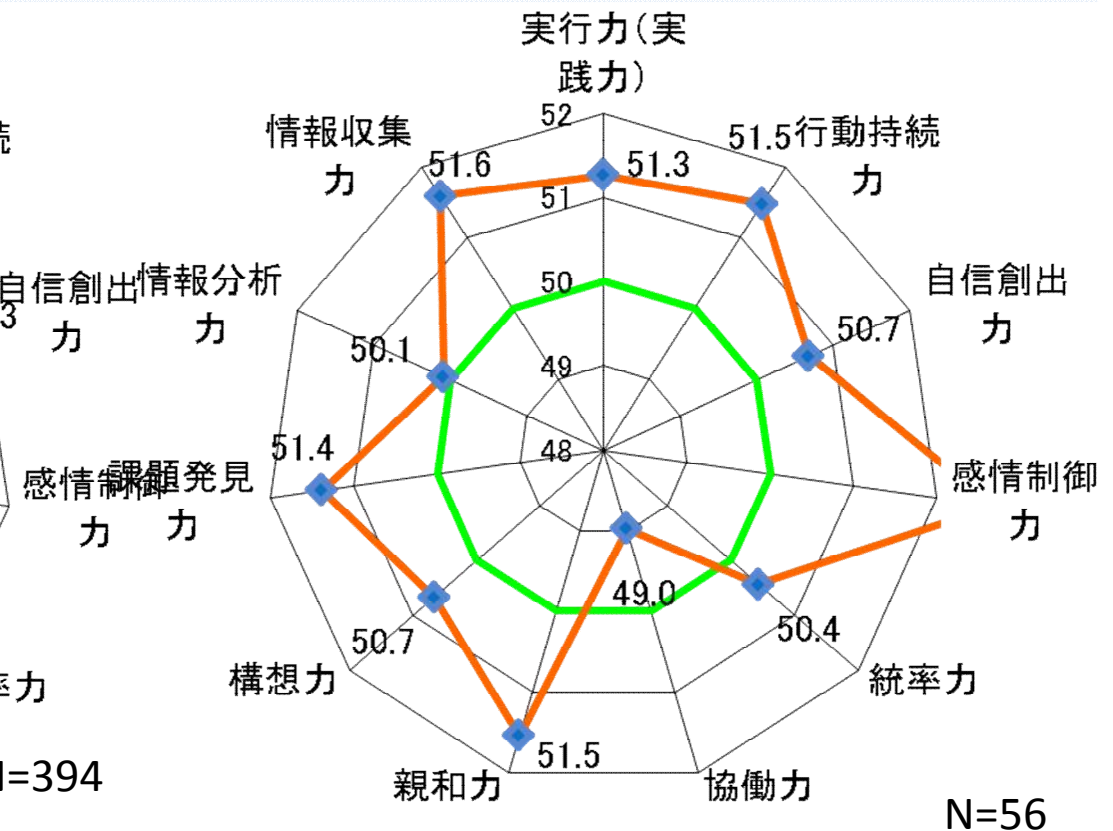
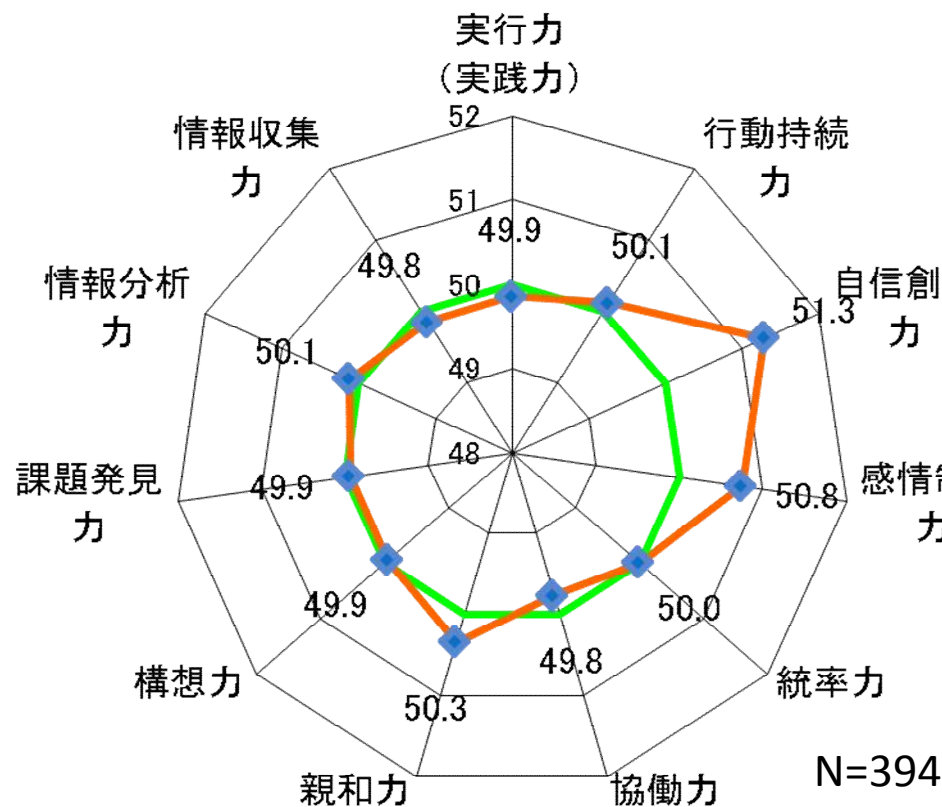


本学で比重を置いているコンピテンシー能力の着実な成長

社会参画実習1の修得状況による コンピテンシー評価の違い

単位**修得**学生の平均値

単位**未修得**学生の平均値



未修得学生は全体的に高いが「協働力」が極端に低い！

今後の活用方針と予定

学生指導と 教育プログラムでの活用

◎ 担任面談等での年次目標の設定と振り返り

- 弱い力や伸ばしたい力を伸ばすための意識化
- リテラシー能力とコンピテンシーのバランス
を考慮した学習内容や参画すべき活動の
指導

◎ 教育プログラムの改善や提供

- 理想とするOB・OGとのギャップを埋める
プログラムの開発
- 各能力を意識的に伸ばすことのできる
プログラムの開発



FDへの展開

- 本学が育てる人材の理想像の共有
→ OB・OGテストの活用
- 学生面談と学生指導法, アクティブラーニング等の教育法のさらなる向上
→ PROGテストの理解と指導法の研修
- 成績評価への活用の検討



- ◎ 人間力教育で重要な
教職員間の情報共有・意思統一を図る

さらなる展開の可能性

- ◎ 全学での学生サポートでの活用
 - IRなどでのデータ活用
 - 時系列でのデータ取得の必要性
- ◎ エンロールマネジメントへの拡張



まとめ

- ◎ 人間力教育の評価手段として，PROGテストは有効な手段となり得る
 - リテラシー能力とコンピテンシー能力を同時に評価することが重要
- ◎ 学生が意識的に能力を伸ばすための教職員の適切なアドバイスとそれに連動した教育手法の習得が重要
- ◎ 大学独自の人材育成像を明確化することが重要